

協定留学体験記

- 留学先 : オハイオ大学 (アメリカ)
- 留学期間 (実際の現地滞在期間) : 2020年5月～2020年12月
- 学部・学科 : 人文学部 英語英米文化学科
- 留学時の学年 : 3年

大学在籍中、英語圏へ留学することは私の1つの目標でした。そのため4年間で大学を卒業できる可能性が高い協定留学に魅力を感じました。残念ながら新型コロナウイルスの影響で現地に行くことはできず、オンラインでの受講となってしまいました。しかし、今のこの状況で自分にできることを行おうという気持ちで約8ヶ月間必死に頑張りました。

夏学期、秋学期のどちらにも日本人はクラスに私のみで、不安な気持ちがありました。また、授業の初日から、私を除いてクラス全員が私よりはるかに英語が話せる印象を受けました。そのため、初期の段階で自身のスピーキング力の低さを実感させられました。しかし、何のために留学を選んだのか、自分が何をしなかったのか初心に戻って考え、ここで挫けてはならないと思いました。またこの環境で、全力で取り組もうと思い直しました。その後、授業中に積極的に発言し、わからないことをうやむやにせず質問するなど、英語を話す機会を増やすことで以前よりもスムーズに英語が出てくるようになりました。また、スピーキング力を上げるために質問する力を磨き、加えて使える表現を増やすために先生が使っている英語の表現も自分のノートにメモをしていました。その他にも多くの英語の表現を学び、使えるようにしたいと思い、休日や長期休みにYouTubeや洋画などを見て、表現をノートにメモをしていました。メモをとるだけでなく、次の日の授業で実際に使ってみたりしました。

また、授業で出された課題は余裕を持って取り組むようにしました。秋学期の授業はよりアカデミックな内容が中心でした。例えば、英語の論文を読んだり、APAスタイルという学術文書の書式でエッセイを書いたりしました。そのため、夏学期よりも事前課題が多くスケジュール管理が大変でした。最初は英語の論文を読むのに多くの時間が掛かりました。しかし多くの論文を読んでいくうちに、だんだんと早く読んでいくことができるようになりました。また、先生も論文の読み方を教えてくださるのでとても助かりました。エッセイの書き方も丁寧に教えてくださり、フィードバックももらうことができます。参考文献、引用の仕方など細かく指導していただきました。最初は書き方が分からなかった英語のエッセイ、レポートも、何度も書いていくうちに書けるようになりました。

授業について言えば、アメリカの授業はどのクラスでもプレゼンテーションがある可能性が高いです。自身も3～5分程度の短いプレゼンテーションを夏学期に行い、10分程度の長めのプレゼンテーションを秋学期に行いました。日本の大学と異なり、アメリカの大学(オハイオ大学)では学生が積極的に発言や質問するなど、学生が主体的に授業を受けていました。また、気軽にオフィスアワーやメールでも質問できる環境が整っています。

さらに、課外活動にも積極的に参加することで様々な国籍の学生とコミュニケーションをとることが出来ました。夏学期にはHall Townというアメリカの歴史について学ぶ時間がありました。1週間に2回行われ、ディスカッション形式で進められます。この課外活動を通して、日本の教科書には載っていないアメリカの歴史について勉強することができました。特にジム・クロー法や人種差別について、今もなおアメリカに根づいている白人、黒人問題について歴史

的背景も踏まえて理解を深めました。また、日本でも耳にしたことのある Black Lives Matter についても理解を深めることが出来ました。加えて、他の国の文化やアメリカ文化についても知る貴重な機会となりました。伝統的な食べ物や衣服についてディスカッションしたこともあります。この課外活動にかかわらず、頻繁に日本文化について質問を受けました。留学する前に日本文化について学び直しましたが、勉強不足な部分がありました。日本文化について英語で説明するのは難しいと感じました。

その他にも夏学期・秋学期両方で Conversation hour という時間がありました。これは決められたトピックについて自分の考えを述べ、反対に相手の考えを聞き、お互いの主張を共有する時間です。毎回トピックが異なるので、様々な考え方や意見に触れることができ、多様な価値観と物事の見方を身に付けることが出来ました。これらの課外活動への参加は自分の英語力向上のためだけでなく、異文化交流の場として活用することが出来ました。

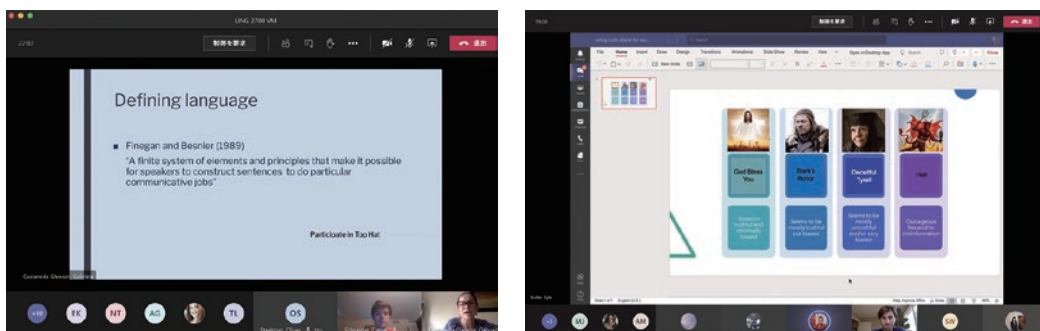
この留学経験を通じて、3つの力が身に付いたと思います。

1つ目は自ら積極的に行動する力です。授業中何も話せず、ただ授業を受けているだけでは何も得ることは出来ません。分からないことや不安に思っていることは恥ずかしがらず先生や現地の大学スタッフに聞くことで疑問点をなくし、充実した留学生活を送ることが出来ます。

2つ目は挑戦する力です。留学を通して、間違いを恐れず、恥ずかしがらずに自分の考えや意見を共有することの大切さを実感しました。完璧な英語を話すことばかりに気を取られがちですが、間違いを気にしては英語力の向上に繋がりません。完璧な英語でなくても言いたいことを伝える大切さを学びました。そして完璧な英語で会話をしなくても、相手は自分の言いたいことを分かってくれている場面が何度もありました。

最後にスケジュール管理能力です。日本の大学とは比べものにならないほど毎日、多くの課題が出されます。全て英語なので、優先順位を決めて効率的に取り組む必要があります。アメリカの大学での単位習得は想像しているよりも大変です。しかし、1つ1つ確実に進めれば対応できます。大変なことを乗り越えた時、それは大きな自信に変わります。このオハイオ大学で得た経験や力は今後の学生生活、社会人生活でも役に立つものばかりだと思います。何より、オハイオ大学で最後までやり抜けたこと、単位習得のために努力したこと、講義やテストで結果を残せたこと、先生に認めてもらったことは、私にとって大きな自信であり最高の宝物になりました。

最後になりますが、この留学を私が最後までやり抜き、多くのことを得られたのは先生方や大学のスタッフが支えて下さったからだと思います。多くの人に支えられ、助けられた今回の留学ではお世話になった方々に感謝しきれません。感謝の気持ちを忘れず、この恩を返せるようこれからも語学習得のため努力したいです。また、武蔵大学に留学に来ている留学生とも関わり、留学に対する不安や疑問を少しでも和らげ、充実した留学生活を送れるようサポートしていきたいです。



(オンライン授業の様子)